

市民参加型プロセスにおける関係者間ネットワークのモニタリング方法に関する基礎的研究
- 小松島みなとまちづくりを対象とした社会ネットワーク分析 -

徳島大学大学院 学生員 田村 聡子
徳島大学 正会員 滑川 津
徳島大学 正会員 山中 英生
(有)環境とまちづくり 正会員 澤田 俊明

1. はじめに

近年、我が国では、フェリーターミナルなどの様々な交通施設の遊休化問題が顕在化しており、このような遊休施設の利活用を図るに当たっては、NPO等の市民組織が、その運営母体として重要な主体となってきた。このため、公共施設運営を行うことができる市民組織育成を目的として、地域の人間関係づくりを基軸とする市民参加型の仕組み作りが課題となっている。本研究では、以上のような市民組織育成を目的とした市民参加型プロセスの各段階における関係者間ネットワークの形成成熟度をモニタリングするための方法として、議事録等のコミュニケーションログを基礎情報とする社会ネットワーク分析の適用可能性を検討した。

2. 調査・分析対象

本研究では、徳島県小松島みなとまちづくりにおける市民参加型プロセスを対象に調査分析を行った。

(1) 小松島みなとまちづくりの概要

平成11年、それまで小松島港本港地区から和歌山を結んでいたフェリー航路が徳島港区に移転することになり、竣工から5年程しか経過していないフェリーターミナルも遊休化し、小松島港から人々の賑わいがなくなった。このような中、小松島みなとまちづくりは、遊休化したフェリーターミナルの利活用を図り、小松島港の活性化をめざすまちづくりとして平成11年度よりスタートした。この取り組みは、国・県・市の合同事業である「小松島港本港地区等活性化調査」の中で、「小松島港ワークショップ」を皮切りに、市民・行政・専門家等の協働による市民参加型プロセスを継
キーワード：市民参加型プロセス 社会ネットワーク分析 市民組織育成
連絡先：〒770-8506 徳島市南常三島2-1 徳島大学建設工学科 TEL088-656-9877 FAX088-656-7579

続させ、「小松島港PCM」「小松島港利用企画調査委員会」等の開催の後、「NPO準備会」「有志の会」を経て、平成14年度、フェリーターミナルの管理運営母体となる「特定非営利活動法人 港まちづくりファンタジーハーバーこまつしま(以下、「NPOこまつしま」)」が設立されることとなった。

(2) 市民参加型プロセスの取り組み経緯の概要

本研究では、上述のようなみなとまちづくり活動の中でも、特に平成11年度から平成13年度の「NPOこまつしま」設立までの市民参加型プロセスを対象とした調査・分析を行った。対象期間中に実施された、各取り組みの概要を表1に示す。

	取り組み名	回数	概要
平成11年度	活性化検討委員会	3回	小松島港本港地区活性化の整備方針、整備計画の検討と策定を行う委員会
	活性化懇話会	4回	小松島港本港地区活性化に向けた意見交換の会合
	小松島港ワークショップ	5回	市民と行政の協働によりワークショップ方式で実施した小松島港本港地区活性化のためのアイデア検討会議
平成12年度	小松島港PCM	2回	学識経験者および専門家の発意により、PCM手法による小松島港の課題抽出、課題解決のための検討会議
	フリーマーケット実行委員会	3回	小松島市が中心となって行っていた屋外フリーマーケットをWS、PCM参加者を中心とした参加と実践の場として実施した実行委員会
	小松島港利用企画調査委員会	9回	WS、PCMを受けて、小松島港利用のための企画調査委員会を発足し、2年間に渡り実施した検討会議 ターミナルビルの試験利用を開始
平成13年度	ターミナルビル利用懇談会	2回	遊休化したターミナルビルの有効活用を考える懇談会
	NPO設立準備会	4回	ターミナルビル有効利用のための活動組織の設立準備のための検討会議
	有志の会	6回	市民発意によるターミナルビル有効利用のための活動検討会議

表1 取り組みの概要

3. 主要メンバーの実感成功度調査

(1) 調査概要

小松島みなとまちづくりにおける市民参加型プロセスの主要メンバーである9名(地域住民：4名、専門家：2名、行政関係者：3名)を対象に、プロセスの各段階で実感した成功度を把握するためのヒアリング調査を平成17年1月に行った。具体的な質問内容と

